

国語 第5学年 情報のとびら：事実と考える

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある5月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「その文は確かめられる事実か書き手の判断か」を問い、教師作成の短い情報を事実と考えるに分け、区別が伝わる段落に書き直す。事実と考えるを書き分けた段落の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)イ	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、原因と結果などの関係を、確かめた情報を基に整理する。思考・判断・表現では、教師作成の短い情報を事実と考えるに分け、区別が伝わる段落に書き直す。交流や試行の前後を比べ、事実と考えるを書き分けた段落を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①確かめられる事実と書き手の考えを区別し、どの事実を基にした考えかを整理している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「書くこと」において、教師作成の短い情報を事実と考えるに分け、区別が伝わる段落に書き直している。（B(1)イ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○教師作成の短い情報を事実と考えるに分け、区別が伝わる段落に書き直す。 ○考えた理由を交流し、事実と考えるを書き分けた段落を仕上げる。	知①・思①（学習記録）／態①は関連する学習の記録も合わせて見る。

本時の案

本時の目標：教師作成の短い情報を事実と考えに分け、区別が伝わる段落に書き直すことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認め、今日使う教材や資料を準備する。 ○「その文は確かめられる事実か書き手の判断か」 【めあて】事実と意見の関係について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・感想を事実のように書いていた。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。数値があれば全て正しい事実とする姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 教師作成の短い情報を事実と考えに分け、区別が伝わる段落に書き直す。 3 書いたものを読み返し、「その文は確かめられる事実か書き手の判断か」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認め。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 〈予想される児童の反応〉 ・感想を事実のように書いていた。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	出典や確かめ方も見て、判断を表す言葉を確認め。知識・技能では、確かめられる事実と書き手の考えを区別し、どの事実を基にした考えかを整理している。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①教師作成の短い情報を事実と考えに分け、区別が伝わる段落に書き直している。(B(1)イ)(初稿・見直した稿・修正理由)
まとめ (分)	5 事実と考えを書き分けた段落を確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】確認できる事実と書き手の考えを区別し、どの事実を基にした考えなのかが伝わるように書く。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。その文は確かめられる事実か書き手の判断かへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（事実と考えを書き分けた段落と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には事実と意見の関係を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に事実と考えを書き分けた段落で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまづきやすい所と手当て

予想する難しさは、数値があれば全て正しい事実とすることである。出典や確かめ方も見て、判断を表す言葉を確認する。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

事実と考えを書き分けた段落

「その文は確かめられる事実か書き手の判断か」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。出典や確かめ方も見て、判断を表す言葉を確認するための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_5_202401.docx)／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口 (<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>)／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編 (https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf)／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

